

風土記の丘の花だより³¹⁵

今、そしてこれから見られる植物(2026年4月4日)

サクラが咲いたかと思ったら、雨風の強い日があってびっくりしました。でも、まだまだお花見は楽しめそうですね。風土記の丘は日に日に花の種類と数が増えています。今回もどれを紹介しようか迷っているところです。



まだ寒い頃にカンサイタンポポを紹介したので、今回はセイヨウタンポポです。名前からも分かるように、外国からやってきた帰化植物です。でも、もうすっかり日本の風土に溶け込んでしまっていますね。見分けるポイントは花の下のベロベロ(本当の名前は、総包外片)です。カンサイタンポポにはこれがありません。中心に立っているのは、綿毛を飛ばしたあとの花茎です。風土記の丘ではまだ見つけていませんが、来園者によると、このあたりには、花が白いシロバナタンポポも生えているそうですよ。



タンポポの次はスマレです。春を代表する花を続けます。このスマレはノジスマレ、ノジは「野路」のことで、山の中と言うよりも、人の暮らしの近くにある野原や道ばたに多く生える小さなスマレです。スマレはそれ専門の図鑑があるくらい、種類が多く、分類がややこしい野の花です。余り詳しく観察すると、花本来の美しさや、かわいらしさを見落としてしまうかも知れません。何々スマレというよりも、「わあ、可愛いスマレ！」でいいと思います。



大きなクスノキの切り株の前あたり、少し下がったところに黄色い花が群生しています。菜の花と思っておられる方も多いかも知れませんが、これはセイヨウカラシナという花です。上のタンポポ同様、帰化植物です。河川敷や土手などに群生して、全体が黄色く見えます。カラシナとは漢字では「辛子菜」と書き、種子から辛子を取る野菜のことです。それで、これを「カラシナ」として載せている図鑑もあります。何年前か前、試しに種子をかじってみました、確かに辛子の味がしました。



万葉植物園に入って左側でシャクナゲの花が満開です。シャクナゲはツツジの仲間なのに、漢字では「石楠花」と書きます。どうしてクスノキという字がはいっているのでしょうか。不思議です。花が数輪かたまって咲くので、とても豪華に見えます。風土記の丘では同じツツジ科のクルマツツジも咲き始めました。そのうちヒラドツツジやサツキツツジ、そして自生のモチツツジも咲き始めることでしょう。花、花、花、まさに百花繚乱です。 松下